

有宵会だより

第93号
発行所
特定非営利活動法人
岳易館・有宵会
編集 広報部
松戸市新松戸1-64

九星と易断による

六月・七月の運勢

気学では午六月

六月六日（芒種）節入り

ア 天道

6	2	4
5	7	9
1	3	8

破

生氣

気学では未七月

七月七日（小暑）節入り

生氣 ア

5	1	3
4	6	8
9	2	7

破

天道



一 白水星の人の運勢

六月筮―天雷无妄の六二

七月筮―乾为天の初九

六月は多忙のときで急用が出るたび慌てそう。

無理押しをすると損、意地を張らない。仕事は骨が折れるので我慢強く。

共同の難しさ交際慎重に。買物超過で出費多し。足腰、皮膚、筋肉、疲労感。

七月は前向き処理で早目に。外を良くして家に不満あり。愛情の誤解と金銭問題には用心深く心掛ける。書類の提出とカギの管理を忘れずに。頭部、動悸、視力と歯など。

二 黒土星の人の運勢

六月筮―地風升の上六

七月筮―沢水困の九四

六月は前月の様相が続く、計画事は急がず時を待つ。仕事は緻密に仕上げて好評、中旬に予定の変更あり。対人面は調子に乗らず謙虚な態度。出費が続きやすい。運動不足、口腔、のどに風邪。

七月は平穩に過ごすとき。付き合いも用事も面倒さを避ける。仕事の焦りは禁物、ウマイ金運の話はさけて、家族の温かさとも足るを知る。足腰、神経、腎泌尿など。

三 碧木星の人の運勢

六月筮―巽為風の九三

七月筮―水雷屯の初九

六月の運氣は歯車が合わない。自重運なので攻めより守りが大切。本業一筋に手を打つこと。ツキがなければ待つ、情だけは十分に示す。家庭は古い事柄や物品大事に。筋肉、関節、免疫症など。

七月は徐々に見通しがつく、懸案の問題も再三の努力で好転。足元を見て漸進するのが良い。仕事は調和を図る。交渉事は中立を貫けば成る。消化器系、熱症、結石型。

四 緑木星の人の運勢

六月筮―山天大畜の九二

七月筮―天山遯の九三

六月は堅実に処理して

いく。次のチャンスに対し準備を怠らず。月末に決断あり。親族の祝儀には慣習通りと金銭は見栄を張らず。日常生活は変らず落着いて安心。体調は良く肩腰、疲労に用心。

七月は平均以上の成果を得る。仕事に新規に意欲湧く。そしてプロ意識を貫ぬく。家庭に幸わせムードが高まる。財運の運用話に乗らない。気管支、肝胆、気疲れあり。

五 黄土星の人の運勢

六月筮―艮為山の六二

七月筮―沢雷随の九五

六月は前途の展望が開くので意欲が高い。仕事は忙しく気が早くなりそう。古いものより新しい情報が多く興味深い。背伸びせずにこそを固めておく。収支均衡を守り吉体調良く調整と維持を。

七月は安定ムード少し楽になること。努力するほどに成果、継続中の用件や仕事など有益性が多い。人脈とは人の繋りを大切に家族愛も大切。気管と咳、風邪、血液検診。

六 白金星の人の運勢

六月筮―山沢損の六三

七月筮―雷山小過の初六

六月は軌道に乗っているものは順調。交渉事は緻密に判断。書類の内容再チェック、身内のことで喜びあり。何事にも柔軟な姿勢で接するのがよい。蓄財の方針吉。足腰、消化排泄の体調管理。

七月は何かと慎重に処するとき。私的な問題は長引きやすいが本業は活気と意欲増、上旬の好機に期待あり。頼りにされるので親身に対処を。疲れと心配に気分転換。

七 赤金星の人の運勢

六月筮―雷水解の六五

七月筮―地山謙の六四

六月は公私に自重が望ましい。懸案の問題は愚図つくが焦りは禁物。対話不足から真意が伝われない。日常は公平さで臨めば平穩で疲れが癒されるでしょう。金運末吉。生活習慣に気を付けたい

七月は荷が重い一面があるので気楽に。わが家で団欒を味わうとか、展示や見聞で豊かさを求める。外からの情報には棘があるのに注意を。頭部血圧、腰骨、大腿部位。

八 白土星の人の運勢

六月筮―沢地萃の六二

七月筮―坤為地の六二

六月は充実感のある動きで結果を出すとき。積極策が効果的でしょう。家庭では下旬の行動は用心深く。変らない愛情を表わすとき。金銭問題とお節介を避けて無難。循環器、頭部、呼吸注目。

七月は平穩さで気持ち落着く。仕事の喜こび対人面でも有益な手応えあり。賢明な人と接して快い。噂話やメールの騒がしさ。金銭に油断せず。口腔、気管、筋肉関節。

九 紫火星の人の運勢

六月筮―坤為地の六二

七月筮―雷風恒の九二

六月は忙しさの用事を上手に処理、余分な手出しをしない。失言と誤解を避けること。強気の姿勢は空回り損をするだけ。食生活を楽しむ、人の親切を仇にしない。体調は心配なく優しく労わる。

七月はいつもの通り過ごして無事、思慮深く行動すること。仕事は本筋を貫く家庭は憩いの場。新規のプランや改革など一時休止、煩惱は流れる。筋肉、関節、血圧、腹部。

福田 有宵

三月有宵会報告

今中 陽子

平成三十一年三月三十日（土）、足立区勤労福祉会館プルミエに於いて、佐藤宗眩先生司会のもと、有宵会例会が行われました。



冒頭、福田先生より、平成最後の有宵会となり、感慨深いものがあります。有宵会がNPO法人の認定を受けたのはこの前の八白の年でした。今年も八白の年です。元号が改まるこの年、新たな時代に新たな道を求めていかなくてはいいけません、とのお言葉を頂戴しました。今回の例会は、お二人の先生をお迎えしました。お一人目は、今年の二月十九日の茨城県の筑波神社ご参拝（初参り）と、昨年の鹿島神宮で御手洗池での禊の際、大変お世話になった一の宮巡拝会・

代表の塩原輝昭先生です。



塩原先生より、昨年の禊は大変良かったとのことのお言葉をいただきました。塩原先生のご挨拶をご紹介します。

筑波山神社は大勢での参拝だったのに、宮司様が大変な問題を抱えていましたので、ご挨拶できなくて残念でしたが、そのあとの大宝八幡宮では素晴らしい参拝が出来て良かったです。その後、お礼参りに伺った際も神社からお礼を言われました。

皆様のお手元にお配りした冊子「WAGO」の編集長と一昨日、お話しする機会がありました。昨年の有宵会の禊のことをお伝えすると、是非、記事として取り上げたいとのことのお申し出があり、ここで福田先生のご許可をいただきましたとのことでした。お二人目は佐々木宏先

生です。



佐々木先生は数年前から、関西でのお参りの時にお世話になっている方です。

大阪で会社を経営する傍ら、神道に深い造詣をお持ちの方です。

神道は占いの分野では、気学と家相との関係が深いものがあります。

以下は佐々木先生のご講演です。

「神道と神社の歴史とお役目」

まず、神道とは答えのないものです

ここで話すことは、沢山ある神道の考え方の一つを示すものです。

今日から四十八時間後に、新しい元号が発表されます。

一つ嬉しいことは、昭和生まれは平成生まれの人から、年寄扱いされて

いきましたから、お互いさまになることですね。

まず神道を語るには、皇室のことに触れなくてはなりません。

今上天皇は百二十五代にあたり、皇太子様が即位されると百二十六代目になります。

皆さん、自分の先祖をどれくらい遡ることが出来るでしょうか？

十代遡るだけで、なんと千人を超えてしまうのです。百二十六代遡ると、

天文学的な数字になります。

これは凄いことです。

そしてこの百二十六代にわたって、神道は皇室とともに育まれてきたのです。

占いに訪れる方は、未来を聞きに来る方がほとんどでしょう。

未来は知りたいという願望は多くの人が持つていても、それを知ることには非常に難しいことです。

日本では、未来は歴史から学ぼうとしてきました。これを鏡と言います。

鏡物という言葉をお聞きになったことはありますか。

大鏡、今鏡、水鏡、増鏡、吾妻鏡などのことで、歴史について語ったもので

す。

これは、過去から学び、未来を察するという考えからきています。

次に日本人と神道のつながりを整理します。

日本史の授業を受けたことはありますか？

なんと今の学校では、日本史と世界史が選択制になっているのです。

戦前の日本では日本史を、諸外国同様「国史」と呼んでいました。

世界中どの国でも自国の歴史は国史であり、英

国史とも米国史とも呼びません。

そして、自国の歴史と世界史を選択制にしている国はありません。

日本では考古学と歴史を一緒にしてしまっています。

原始時代から一気に飛鳥時代に飛んでいるようなものです。

またお寺と神社の違いが判らない人も多いのです。

これが国史をわかりにくしています。

が住むようになったといわれています。

DNA検査の結果、東南アジアから日本にわたってきた人を縄文系（本土日本人）と呼び、彼らが

祀っていた神が国津神で、紀元前五百から千年前に、中国大陸から朝鮮半島を経て日本列島にやってきた人々（渡来人）を

弥生人と呼び、彼らが祀っていた神々が天津神です。

縄文期は自然が安定していたため、木の実や果物、貝などが多く、採集生活を送っていましたが、

弥生時代は人口が多くなつたうえ、それまでより自然が厳しくなってきたことから、安定的に食料を

確保する必要が出てきたため、稲作などの農耕に生活様式が変化していき

ました。

この稲作から、神道は始まったといえます。

初代天皇の神武天皇の頃、中国は周の国で周易が作られました。

同じような時期である紀元前五五〇年頃に、仏陀や孔子も誕生されたといわれています。

資料をご覧ください。最初の神道も、こうした変

遷を経て確立していきま
した。

卑弥呼の時代になると
大陸との活発な交流が進
みます。

卑弥呼は鬼道をといい、
現在の占いに近いものを
行っていたと思われます。

この頃、日本に銅鐸が
入ってきて、後に銅鏡が
入ってきました。

日本の歴史上、大きな
転換期が三回ありますの
で、それをご説明します。

第一は、聖徳太子です。

歴史の授業で、聖徳太子
は仏教を取り入れた人と
言われていますが、それ
だけではないのです。

仏教を取り入れながらも、
国家祭祀は神道とすると
もお決めになつてもいる
のです。

先進国の文化・思想を取
り入れるために仏教を取
り入れました。

その中には仏教のみなら
ず、道教・儒教・律令制
度・そして易も入ってい
ました。

そして、日本人の精神性
として神道を祭つたので
す。

「日出処の天子、書を日
没処の天子にいたす」と
いう有名な書が送られた

時代は、海外との問題を
抱え、日本という国を意
識する最初の時代でもあ
りました。

大国の隋に極東の島国
から対等の口の利き方を
された隋の煬帝は、それ
を無礼だとし、使者を殺
せというほど激怒したと
いいいます。

しかし、当時の隋は高句
麗と争っていたため、日
本まで敵に回せなかった
ので、隋から使者を送
ることになったのです。

隋の使者を大阪の四天王
寺に迎え、その大きく立
派な伽藍を見せることで
強国のように見せました。

しかし、その後も国難
は続きます。

隋の後に勃興した唐と半
島で台頭してきた新羅に
より、親交のあった百済
が攻め滅ばされてしまう
のです。

当時、大陸の情報に親し
くしていた百済の国から
入っていましたので、そ
の危機に際して、援軍を
送りました。

これが白村江の戦いです
が、大敗してしまいます。
国内でもその少し前に起
こった大化の改新により、
仏教系の蘇我氏を天智天

皇（中大兄皇子）と神道
系の中臣鎌足が打ち破り
ましたが、決して安定し
た政情とは言えない状況
でした。

天智天皇は、勢いに乗っ
た敵勢がいつ攻めてくる
かもしれない危機的な状
況を鑑み、守りを固める
ため、都を奈良から近江
に遷し、九州・中国地方
の要所に防人を置き、守
りを固めました。

幸いなことにそれ以上の
戦いはありませんでした。
余談ですが、中臣鎌足は、
のちに天智天皇から藤原
姓を賜るのですが、この
名前は素晴らしい名前で
す。

「藤」は「富士山」に通
じ、二つとない最上のも
の、「原」は「腹」に通
じ、最も大切な場所から
くるからです。

まさに腹心の部下という
事を表わしているのでは
しょう。

ちなみに中臣は神道の官
職名であつて名字であり
ません。

神道系が仏教系を打ち破っ
ても、仏教を排撃するこ
とはありませんでした。
神道である春日大社も、
仏教である興福寺とも

に藤原氏が建立しました。
これが神仏習合の始まり
となりました。

天智天皇の弟、天武天皇
は「古事記」「日本書紀」
の編纂を命じます。

この時代到大宝律令の中
で初めて「日本」という
言葉と「天皇（すめらみ
こと）」という言葉が使
われます。

それまでは「大君（おお
きみ）」と呼ばれていま
した。

式年遷宮という二十年に
一度、すべての社殿を建
て替えるという行事は、
天智天皇のご息女で天武
天皇の妃であられた持統
天皇の時から始められま
した。

天武天皇・持統天皇の時
代が、神道を国の中心に
据えた転換期と言えます。
白村江の戦いから約六
百年、国内には源平の争
いなど、いくつもの戦が
ありましたが、日本には
外国との大きな争いはあ
りませんでした。

第二の転換期は「元寇」
です。
鎌倉末期、初めて日本の
国土に外国勢力が入って
きました。

それまでは出兵でしたの

で、日本の国土に外国勢
力が入っては来なかった
のです。

朝廷と幕府は、元の属国
になることを拒否し、一
丸となつて戦うことにな
るのです。

そしてこの時、仏教でも
ご祈祷が行われましたが、
やはり日本の国家祭祀は
神道でという事になり、
伊勢神宮でのご祈祷が行
われました。

二度にわたる元寇を日本
は凌ぎましたが、実は三
度目が来ることを想定し
ていました。

ところが、ベトナムの頑
張りど、二度にわたる敗
戦により元の国力が落ち
たため、三度目はありま
せんでした。

しかし元寇は、奮闘した
武士達に恩賞を与えるこ
とが出来ない戦いであつ
たため、幕府への不満を
生むことになりました。

鎌倉幕府は倒れ、後醍醐
天皇の建武の親政により、
再び日本は皇室をいただ
く国という事を認識しま
した。

その頃、北畠親房が「神
皇正統記」を記していま
す。

しかし、これも長続きし

ません。

そしてまた六百年、戦国
時代という未曾有の内乱
はありましたが、外圧は
ありませんでした。

第三の転換期は、黒船来
航と明治維新です。

長らく鎖国をしてきた日
本に、米国が開港を求め
てきました。

時は列強が植民地争奪戦
を繰り広げている時代。

後に初代内閣総理大臣と
なる伊藤博文、井上馨な
ど長州ファイブと呼ばれ
る面々が、英国に秘密留
学をし、当時最も発展し
ていた国である英国の制
度を学んできました。

それは国王による統治で
した。
英国王は英国国教会の当
主であり、王としても国
を統治していたのです。

日本の武家政治は、武士
の頭領である征夷大將軍
という、朝廷から与えら
れた官位の者による統治
でした。

武家の頭領は源氏の頭領
となりますが、その源氏
も元々は清和源氏と言ひ、
清和天皇の末裔でもある
ことから、皇室の流れを
くんでいるのです。
それゆえ、皇室の否定は

自己否定につながるのです。だから、朝廷の委託を受けて政治を行う形を取っており、誰も天皇にとって代わろうとはしなかったといえます。よく宗教と対立した武将として織田信長が挙げられますが、彼は神道を重んじていました。その証左に、戦乱で途絶えていた伊勢神宮の式年遷宮を命じていました。信長が復興を命じ、秀吉が実行し、家康が継続させて、今に至っているのです。新たに発足した明治政府は、当然のことながら源氏の流れをくんではいません。それゆえに英国式の国王統治を取り入れました。英国に於いてのキリスト教といった位置づけで国家神道を打ち出したのです。

明治政府は、それまでは神仏習合で一緒だったものを、神仏判然令を出し、寺と神社を明確に分けるよう命じました。廃仏毀釈が行われたと思われていますが、寺の力の強いところでは、寺が全てを持つて行っていました。寺は幕府の命で菩提寺としての戸籍管理の機能を持たされてしまったので、神仏判然で打撃を受けたのは、神社の方が大きかったのです。もちろん例外はあり、薩長同盟の山口と鹿児島では、寺は手ひどくやられました。江戸時代までは神仏習合でありましたから、宗教関係者はまず、最初は神主になって掃除、次に覚えやすい祝詞を覚え、最後は僧侶となつて経を読む順番でした。明治時代、神社を大切にしようという事から、神主は公務員となりました。そういった意味で神社は数が減つても公務員なので安泰なのですが、寺は自分で稼がなくてはならなくなりました。

それまで一般人のお墓というものはありませんでした。日清・日露戦争は、白村江の戦以降、初めての海外出兵でしたから、戦没者を大切に供養することは国策とも合致していたのでしよう。この頃から庶民も家ごとにお墓を持つようになりました。お葬式の際のお経は、実は祝詞なのです。祝詞を仏教風に行っているのです。本来の仏教にはお墓もなければ葬式もありません。公務員となった神主でしたが、浄土真宗の僧侶から、神社ばかり狡いという声が上がりが、たった三年で公務員制が廃止されてしまします。国も財政が苦しい折、公務員の縮小は願つたりの事だったのでしよう。こうしてみていると、神道が重んじられるのは困難に瀕した時です。六百年周期には合わないですが、今、日本は大変な状況に陥つていると思います。

合わせが多いそうです。明治神宮も参拝者の半数以上が外国人だそうです。ところで、日本人の定義とはなんでしょうか？「日本語が話せる」しかし、日本で働いている人は、外国人でも日本語ができる人が多いですよ。ね。「日本で生まれた」これも日本在住の外国人カップルから生まれたお子さんはどうなるのでしょうか。葛飾区の保育園児の一分は外国人です。「日本の精神性と文化を理解している」しかし、日本人でも日本のことを知らない人が多いのも事実です。世界で最も歴史の古い国はどこかという、日本なのです。二位がデンマークで三位が英国です。神武天皇が即位されてから数えて二六七九年、歴史上に日本のことが記された、三国志時代の魏志倭人伝の卑弥呼から見ても千七百年、日本と初めて記した大宝律令の時から見ても千三百年と、他国から見ても圧倒的に長い歴史があります。中国四千年の歴史と言

いますが、異民族との攻防のみならず、漢民族同士の間にもあり、何度も革命がおこり、連続した歴史としては日本がダンツに古いのです。文明としてとらえてみても、世界最古の料理は日本で行われていたといえます。これは考古学の研究の結果、縄文土器から痕跡を発見したそうです。世界最古の磨製石器と土器も日本が最古です。その古さは抜きんでいきます。そして江戸時代の寺子屋制度をとつてみても、就学率の高さは圧倒的です。一般庶民の子供が学校に通つていた国は、日本以外にはありません。米国の政治学者サミュエル・ハンティントン氏の「文明の衝突」という著書をご存知ですか？その分類によると、日本は中華文明の影響から離れ独自の発展をとげたとして、一つの国で文明と分類されている唯一の国なのです。

ところで二〇一六年に伊勢・志摩サミットが行われましたよね。なぜ、あそこで開催されたかというと、各国首脳からの強い要望があったからです。首脳陣は自国の大使から、伊勢神宮の素晴らしさを聞いておられたのでしよう。伊勢神宮としては少々迷惑なお話だったようです。特に米国大統領となると別格で、爆弾探知犬をくまなく走らせるというのですから。もちろんご神域に犬をいれるなどもつての外ですから、警察官が犬の代わりにくまなく探したそうです。少し話は古くなりますが、英国のエリザベス女王が来日された際、伊勢神宮ご参拝されたことをご存知ですか。エリザベス女王陛下は英国国教会の当主なので、本来なら他宗教の参拝は出来ないわけですから、「伊勢神宮をお散歩された」と発表していましたが、本当は正式参拝されていたのです。そのロジックですが、世界各国の宗教の認識は、教義・教典・教祖の三つが揃つていることなのですが、日本の神道は三つ

ともないから良いのだそうです。

ただサミットのお蔭で良いこともありました。

学生さんたちが修学旅行で参拝するようになったことです。

昔はそんなことをさせようものなら、父兄から「宗教行事を強要するとはけしからん！」とクレームが来たのですが、今は「折角行ったのに、なぜ連れて行かなかった」と逆のクレームが来るようになりました。

先ほどお話した、日本人の精神性についてお話ししましょう。

「儒仏道禅神」という言葉をご存知ですか。

聖徳太子の時代、儒教、仏教、道教は当時の最新の文化と技法とともに日本に持ち込まれ、神道に象徴される日本独自の精神性と融合して、洗練された進化をとげたものです。

中国大陸や朝鮮半島と比較してみると、日本は台風や地震など、自然災害の多い国です。

しかし、この災害によって日本の独自性が生まれたとはいえるでしょう。

戦国時代等を除けば、日本では多くの人命を失うのは、こうした自然災害によるが多かったです。

大雨は作物をダメにしますが、雨が降らなければ作物はそもそも育ちません。

雷は危ないけれど、稲妻により地面に電流が走れば豊作に繋がります。

お天道様は畏れ多いけれど、恵みを与えてくださる。

全てはお天道様の仕業ですから、根に持ちません。この畏敬の念が日本神道の底流に流れているのです。

それに比べて中国や半島では自然災害ではなく、人災ですから、恨みを残します。

山や岩をお祭りする神社は、水の出る所にあります。

神社は穢れを嫌います。水は穢れを流れ落とす、水が穢れたら命にかかわるからでしょう。

古事記と日本書紀は書かれた目的が違います。

古事記は国内向けに、皇室の正当性を記すとともに、天皇は国民（同胞）

のために何をしなくてはならないのかを、漢字は用いています。大和言葉で記されています。

これは後年の人間にとって大変難解な書物で、江戸時代に本居宣長が解説し、古事記伝として残っています。

日本書紀は海外向けに記された書物です。

日本の正史であり、国際的に国家の成り立ちと正当性を説いたものです。こちらは漢文で書かれています。

記紀のいずれも、神仏は最初から一緒となっていました。

大化の改新で、仏教系の蘇我氏を神道系の物部氏が滅ぼしたとなっていて、四天王寺を守っているのは物部系の人で、物部神社というのも境内にはあるのです。

また、四天王寺には建立当時から、石の鳥居が立てられています。

こういったことから神仏習合がこの当時から行われてきたことが分かります。

また、東大寺のお水取りは、奈良時代の大仏開眼の供養のころから今に続き、

毎年ずっと行われてきました。

このお祭りは仏式で執り行われますが、最初に行われる儀式は、神様のお名前を読み上げるという事です。

日本人が神道と仏教の違いが分かりにくくても当たり前前のことだとも思います。

入った時から明治の神仏判然令が出るまで、ずっと同じだったのですから。日本人は昔から、雨が降り、山から川へ水が流れ、作物を育て、やがて海に流れ、魚や貝を育て、私たちの暮らしを豊かにし、そしてまた天に還り、また雨となって地にそそぐ、という循環系の考え方をしてきました。

そのことに感謝と畏敬の念を抱いてきました。

食事の時に「いただきます」と言いますが、これは命をいただきますと感謝することです。

西洋では労働は苦役で、自然は征服するものでした。

しかし日本では、働くとは「傍を楽にする」誰かのために奉仕するという

考え方です。

いま世界では、SDGSという持続可能な社会を目指すようになり、日本の循環型の考え方に世界が追いついてきた形になっていました。

神道と神社の大切なお役目のお話ですが、神社とは、そもそも何をするといいかというところ、お祭りをするとどこであります。伊勢神宮では、年間千五百ものお祭りがあります。

一般の神社でも年間を通じてたくさんのお祭りがあります。

個人でも初詣やお宮参り、試験に受かったお礼参り等、色々お参りをしてい

ると思います。

氏神様とは、その土地を守る神様で、氏子とは居住する土地の神様に守られていて人のことです。

崇敬神社とは、地縁・血縁の関係なく、個人が信仰する神様のことです。

最近では自分がどの氏子かわからない人が多くなりましたが、実のところ神社庁でも分からなかったりします。

神社で聞くと、どこか教えてもらえます。お参りについてですが、お宮参り等の行事のほかに、毎月一日に神社にお参りに行く「朔日参り」というものもあります。

そのほかに、六月（夏越し）と十二月の晦日に行う、大祓というものもあります。

いずれも穢れを祓い、清い心で迎えましょう、という事です。

また、個人の心身の浄化をすることですが、四魂という言葉があります。

これは「和魂」「幸魂」「奇魂」「荒魂」といい、神様の名にも色々なものがあります。

神様にさえ、色々な面がありなのですから、もちろん人間もそうです。お祓いをしたくらいではすべてを落とすことは出来ませんが、神社へ行き、まず自らを赦し、人も赦すという事が大切です。

鏡をご神体に行っていることがありますが、これは鏡（かがみ）に映った自分の姿から「我（が）」を抜くと神になることからきています。

仏教でも、悟りは自分の心の中にあるといえます。本来の姿に気がつくために、神社に行ってみると良いでしょう。

ここで神社の実態についてお話します。

江戸時代は十九万五千社あった神社が、明治時代に十萬社、現在は八萬社まで減っています。

神主さんの数は二萬二千人です。

人のいない神社が多いとお伝えしましたが、八萬社の神社に二萬二千人の神主さんですから、多くの神社を兼務していることが分かります。

さらに二萬二千人の神主さんのうち、一万人が宮司さんですから、中小企業でいえば従業員の半分が社長というような状況です。

女性の占める割合も一割です。

これは戦争により跡取りが戦死してしまったことによりです。

対してお寺はというと、江戸時代は九萬五千寺あったものが、明治時代に七萬七千寺になり、現在もその数を維持しています。僧侶は三十三万人で、お

寺に従事しているのは十一万人です。

実は神主と僧侶だと、お葬式や法事のあるお寺の方が、実入りが良いのです。

神社には地域の伝統文化や技能を伝承する機能があります。

芸能、技能においては、自分との闘いでもあります。

先代の優れた方は既に亡くなっていますが、それに負けないものを神様の前に奉じるといふ心が伝統を守っています。

神社の式年遷宮は、伝統技術の継承という意味でも重要です。

世界最古の会社は、日本の金剛組という建設会社で、神社・仏閣の建築を得意とする会社です。

昭和四十年代の消防法により、神社仏閣も伝統工法ではなく、セメントと鉄筋を用いるよう指導されたため、職人が減ってしまい、結果的に人手不足に陥り、倒産の危機を迎えたことがあります。

現在は本業の宮大工に立ち返り、営業していますが、こういったことからわかると思います。

「國」という文字は、国構えも、その中の口も、その地域を守ることです。また「武」という字も、本来は戦を止めるという意味です。

神道の考えの中に「中今」というものがあります。

「中今」とは、自分たちは、歴史を振り返ってみても、やがてその自分たちも振り返られる存在になります。

長い歴史の中間にいることになりませんが、神道は初めから、そのことを考えられているのです。

そして、それを語り継いでいく責任があります。

明治になり、公共という言葉（概念）が輸入され、それと同時に権利という考え方も入ってきました。

日本はそれまで自助共助という考え方でした。

自助共助では、公共事業はその地域の人たちの資金と労働力で賄われてきました。

それを税金で賄い、その地域とは直接縁のない他者が行うようになったのです。

本来、自分たちの地域

のことは自分たちでやるという考え方から、税金を払っているのだから、誰かにやってもらおうという考え方になってきました。

自助共助の考えがなくなったことが、日本人の精神性を損なう一因だったと思います。

自助共助には、子供を地域で育てる事にもつながります。

核家族化が進み、若い夫婦の中には、育児のこととが分からない、誰にも聞けないというストレスから、虐待等の問題も起こっています。

神社と災害には密接な関係があります。

特に東北大震災では、それが顕著でした。

海岸線をいくと、古い神社はあの津波の中、どれが残っているのです。

別の言い方をすると、残っているところは歴史的に見て被害を受けなかったところ、安全なところなのです。

昔は神社やお寺に、こうした古い文献が残っていたのですが、それを明治維新の際、神仏判然で神社に残っていた文献の

方は、神主を公務員にして転勤させたため、散逸してしまいました。

最近では観光ブームで、多くの外国人が日本を訪れます。

日本の産業は鉄鋼・電子産業等多くが衰退してきました。

これからの日本を支える産業は、観光と農業です。

海外の農業は地下水を汲み上げていますので、地下水を汲み尽くしてしまふと砂漠化するという道をたどっています。

日本の農業は、循環型農業ですから、持続可能です。

これからの日本は農業国として世界に貢献できま

す。神社神道が日本の土地や農業、地域住民を守ってきたのです。

お水についてはご説明いただきましたが、ペーパーを参照ください。

個人個人が神と向かい合うこと、そして中今の考えでそれを引き継いでいくことが大切です。

【講演後の質問①】

神社の中で、上賀茂と下賀茂とありますが、それは何でしょう。この配

布資料の中にもありませんが、それはなぜでしょうか。

【回答①】

賀茂神社は特定の人を祭っているのです、系統立てられるほどの数がないからです。

神武天皇をお迎えした八咫鳥が、この系統と聞きます。

【講演後の質問②】

町の小さな神社やお社は、どの系統に入るのでしょうか。

【回答②】

神社の神様は、その地域の人が、何かのご縁でお祀りしているものが多いです。

そして一柱でなく、多くの神様をお祀りしていることが多いです。

元々の産土の神様のほかに、移住してきた人がお祀りしていた神様とか。

江戸時代の参勤交代で自領の神社を持ってきたりしていたので、色々なものがあります。

【講演後の質問③】

厳島神社は、平清盛が信仰していたと聞きますが、これは元々あった神社を信仰したという事でしょ

【回答③】

厳島神社は元々あった神社ですが、平清盛は貿易を重要視していた関係から、海の守護である厳島神社を大切にしたいといういきさつがあります。

また出光石油がここを信仰していたことから、事業隆盛のご利益もあるといわれています。

また、平家は熊野も大切にしました。

源氏は八幡様を信仰しており、源平ともに神仏を大切に祀っていたのです。

佐々木先生はとてもお話がお上手で、あっという間に講演が終わってしまいました。

佐々木先生、貴重なお話を、どうもありがとうございました。

「福田先生のお話」



平成の時代は皆様にとって、壮年期、青年期を過ぎた時代です。

思えば深い時代ではありますが、いつの時代も変わっていかねばなりません。

新しい時代には期待もありますが、寂しさもあります。

和暦とは、世界のなかで日本だけが独自の暦を持つています。

年号と和暦は、誇れるものです。

佐々木先生のお話の中に、大阪の四天王寺のことが出てきました。その伽藍の裏に墓所があります。

大分前のことになりましたが、易学の大御所である加藤大岳先生がご健在の頃、加藤先生とご一緒に毎年、汎日本易学協会大阪支部に伺っていました。

それは、四天王寺の五輪の塔の、先覚先師供養塔にお参りしていたからです。先覚先師供養塔の横に寄付した人の名前が刻まれています。（福田先生もその中のお一人です）

十月の祈念会には、大岳先生と参拝していました。

そういった意味でも、四天王寺さんはご縁の深いお寺です。

佐々木先生はきっと、数多くのご講演をされているのだと思うね。

とても分かり易く、抑えるべきところをキチンと抑えておられるところは流石です。

資料も非常に良く、お水取りの写真は、大変ありがたいものです。

碑と墓誌という言葉があります。

以前にもお水取りについて取り上げたことがあります。

理由で、どういう立場の人が一宮の宮を創建したか、その理由を書き記した文献はことに大切です。

それが分かれば、お水取りの場所としての由緒、値打ちが世に表れると思います。

塩原先生、佐々木先生には是非、こういった文献の保存をお願いしたいと思います。

水には、山の水、平地の水、海沿いの水等、様々

があります。

の水は、山の水は味が良いものが多いです。

それは成分の違いからですが、お水取りにとつて成分、味は関係があるのでしょうか？

このことに関しても、塩原先生に是非、研究していただきたいと思えます。

関東の一の宮はたいはい真水です。

しかし、千葉と群馬と長野の水では水の質が違います。

気学で方位は分かっても、何故その水が良いのか、水の質の部分を知ることが今後重要となってくるでしょう。

研究は一人でやる方法と、グループでやる方法があります。

周易で「三才観」という考えがあります。

三才とは、天、地、人から与えられた場所と地から与えられた場所があり、それぞれ水の質が違います。

その間にある人間は、天地の水をいただいて生きていきます。

しよう。

人は平らな所に、そして水のある所、つまり川の近くに集まっています。

水を求めていく道順は、古来からあります。

それに対して山への信仰は、日本の歴史、宗教の中に根本からあります。

山の神への信仰です。

山は上から横から、あらゆる場所から、水が湧き出てきます。

それに比べて海の神への信仰は少し異なります。

海の神は一方向、下からのみになります。

海の水もお水取りの方法のひとつですが、海水は塩辛く、飲み水とはなりません。

どのように考えていくかが今後のポイントとなるでしょう。

山の水というのは、どこに行っても美味しいものです。

す。

また、その場の水をいただきますが、どのような気配があるか、感じるかをメモしておくといいでしょう。

水は命の水とも言います。

命をいただくという事は、命をいただくことでもあります。

子・亥・坎・一白は水気です。

その場所、場所に特定の存在があります。

今日のは佐々木先生のお話とも少し関連すること、方位についてお話ししたいと思います。

吉方のお水をいただけて幸せになりたい、これは人間の知恵です。

人間の知恵は天地の知恵に比べれば小さいものです。

方位三十度から六十度、家相は四十五度というのが定石です。

戦後の将棋の升田名人が「新手一生（しんていしょう）」という言葉を残しています。

これは、人の指した手は指さない。

定石にとらわれない、新しい将棋の創造に生涯を

ささげるといふ事です。

占法も将棋同様、新し
のものが出ないと伸びま
せん。

しかし、なかなか新しい
ものが出てこないのが現
状です。

しかし、これを出すよ
うにしていかなければ、
古い業界の未来は開かれ
ていきません

例えば、吉方に引つ越し
したのにうまくいかない、
それはなぜなのだろう？

そういった時は一度判
断の方法を見直してみ
ても良いでしょう。

関東では気学の三十度
から六十度の方位が、明
治末から大正時代まで良
いとされてきましたが、
関西では方鑑流の考えか
ら、家相の四十五度説が
あります。

これは今後の研究課題
でしょう。

十二支で十二方位、各
干支が三十度づつで、四
隅は二つの干支が入るの
で六十度と言われている
です。

ここで四隅の7・5度が
ポイントとなります。

江戸時代の方鑑流では、
この四隅の近接する7・
5度の部分を曖昧な部分

としました。そのため四
十五度であれば、四隅の
存在として良いのですが、
六十度であれば、ズレが
生じることがあります。

次に引つ越してすぐの
事件、事故などの方災に
ついて。

こういった時は吉方な
のに何故なのかを常に注
意しておく必要があります。

占術家は、依頼者が指
示に従ったにもかかわらず、
いやな目にあつた場合
は、その責任を問われ
ます。

そんな時にも答え方が大
切です。

①本人の年運との兼ね合
い。俗にいうツイていな
い時期にあたつてしまつ
た。運氣は気配ですが、
運勢には結果が出ます。

②最近、引つ越しとは別
に方災を犯していたのか？
方位の借金があれば、負
の気を継続していること
があります。

③吉方が吉方でなかつた
か。

すぐに結果が出れば方
位の問題で、三年から四
年以降に災いがあれば、
それは家相・地相の問題
です

吉凶は動にありといい、
動くことで吉凶が出ます。

③の場合は、分界が間
違つていたことになりま
す。

これは線上の部分の見方
の問題で、7・5度の余
裕を取れないと起こる可
能性があります。

分界とは角度のこと
です。

四正であつても、線上
ギリギリのところは避け
た方が無難でしょう。

四隅は二つの十二支に
またがつているため、気
が変わるので複雑です。

四隅は、東南Ⅱ辰巳、
西南Ⅱ未申、西北Ⅱ戌亥、
東北Ⅱ丑寅で、辰・未・
戌・丑は五行の土性を取
り入れています。

春夏秋冬それぞれに土用
があり、それがここにあ
ります。

土用の部分の影響はある
のだろうか、という研究
があります。

土用は合う人と、合わな
い人があります。

人の能力・才能・体力も
それぞれで、また限りが
あります。

個人個人で条件が違つて
きます。
個々の条件を合わせてい

くと、定説と合わない部
分が出てくることがあり
ます。

十二支を参考に方位は出
来ています。

今年でいうなら、西北の
九紫、東の六白を生かさ
れているのか？

西北の九紫、東の六白を
選んだ場合、西北の戌亥
の六十度は全体に生かさ
れているかが問題となり
ます。

気学上では問題がなくと
も、実際は違いが出る場
合がままあります。

気学上の星だけでなく、
十二支の気も良く考え合
わせる必要があります。

特に四隅は、二つの十二
支の性質を見なくてはな
りません。

四正には力が、四隅には
変化があります。

気学家はそれを用いてき
ました。

一支三十度、四正は条件
に合いますが、四隅はど
うでしょう。

7・5度の違い、家相の
四十五度説との違いはど
うでしょう？

それぞれの占法には利点
と弱点があります。

地図上の方角と、磁北の
違いも見なければなりま

せん。

五黄殺・暗剣殺、歳破な
ども要注意です。

変化のある場所は厳しい
ところでもあります。

学術でも、研究でも先人
の教えを守っています。

そのため、六十度説、四
十五度説についても論争
していません。

こういったことをキチン
と考えることを提案しま
す。

分界線上にはプラス面も
マイナス面も出ます。

どういう面が出るのか、
考えましょう。

土性は命を司るところで
す。

良い判断をするには、土
性を上手に使うことです。

【質問】

自分の本命星が四隅に入
る場合、本命星が十二支
と対冲や、害になる場合
はどう見たらよいでしょ
うか？

【回答】

古くから、子年の人は北
（子の方角）には動かな
い等があります。

特に家相上では、十二支
の影響は強く見えます

が、実際には十二支まで
は考慮していないことが
多いです。

十二支をどう見るかを勉
強してほしいと思います。

習うのではなく、自ら考
えることが大切です。

万人に合う方位は平均的
なものです。その人個人
にある方位をどう考え、
どう見るのか研究してく
ださい。

福田先生、貴重なお話を
ありがとうございました。

福

田先生と行く中国天水
大同易学交流の旅紀行

菅原 有恒

旅行記第二弾

＊第3日目；11月1日

（木）…晴；西安から大

同へ；100歩

大同泊；大同假日酒店

・5…20；朝食；パン・

ヨーグルト・バナナなど

を各自に配布し、バスの

中で食事。

・5…20；出発

・7…55；西安空港出発…

6414

6414…機内食

・9…45…大同空港着

＊大同ガイド…陶建さん

（大同海外国際旅行社有

限公司）、運転手…郝さ

ん

・10…30；専用車で大同

市内見学へ。

＊平成14年（2002）に日中

展太原展の際に立ち寄った時は、何もない街だったのに、今は、さま変わり、雲を突くような高層マンションが林立していた。それでも足りないそうだ。

・10・40; 昼食・東方剖面…刀削面・肉面…町の人が毎日食べているような様なセルフサービスの店だったが、衛生上はきちんとしており、中に入ろうとしたら、「帽子をかぶらないといけない！」と注意された。味もなかなかうま、汁も残さず完食した。間食したのは、小職だけだったようで、量が多く、大方の女性は半分も食べられなかったようだ。

・11・15…出発
・12・00…雲崗石窟

*中国山西省北部の都市・大同は、北京から西へ350kmのところ、位置している。北魏(386-534)の最初の国都・平城はこの地に置かれた。雲崗石窟は、洛陽の竜門石窟、敦煌の莫高窟と並んで中国三大石窟の一つに数えられる華北最大の石窟寺院であり、大同の西約16kmにある武周山

の麓の断崖に東西1kmに渡って築かれている。開鑿は北魏の和平元年(460)に始まり、太和18年(494)の洛陽遷都を経て、正光5年(524)まで約64年をかけて行われたという。

但し、その後も造営は継続され、隋・唐時代や遼・金時代の仏像も見ることが出来る。北魏時代の仏教興隆の功労者は第4代・文成帝(在位452-465)とされている。452年、第3代・太武帝が宦官に殺され、彼が実施してきた廃仏が終了した。崇仏者だった文成帝が皇帝に即位すると、仏教復興に力を尽くした。彼の治世の時代には、国家と仏教の結びつきが強くなっていた。

文成帝は仏教復興の詔を下し、仏教教団を統率する中央官庁である沙門統の長官に曇曜(どんよう)を任命した。和平元年(460)、曇曜は北魏の都・平城の西にある武周(雲崗石窟が開鑿された武州塞)山に石窟を築くことを建議した。文成帝は曇曜の建議を受け入れると、彼を責任者として五窟を開くことを許可した
第2代・明元帝の時から

武周山は歴代の北魏皇帝から福を祈る山とされてきた。一方、当時の平壤は中国北方の政治・宗教・文化の中心であり、全国から優秀な人材が集められていた。その中には、涼州から移住を強制された僧侶3千人、官吏・人民・工匠3万人がいた。北魏の皇室はその国力をもとに、大規模な雲崗石窟の開鑿を始めた。

雲崗石窟を世に知らしめた日本人の功績は大きい。最初にこの石窟を世界に紹介したのは東京帝国大学(1954年)の伊東忠太教授(1954年没)で、東亜古建築の研究のため、明治35年から36年にかけて中国各地を歴遊し、その旅行中に雲崗石窟を発見し、近代的学術的手法で調査し、世界に広めた。その後、関野貞(1935年没)が石窟を調査し、共著『支那仏教史蹟』の中で雲崗石窟を紹介している。京都の東方文化研究所の若い所員、水野清一と長廣敏雄の両氏は昭和13年(1938)から組織的な調査を開始し、昭和19年(1944)まで7回の調査

を行った。

その報告書は戦後『雲崗石窟』全16巻として出版された雲崗石窟の区分と開鑿時期武州川の北岸は砂岩質台地の断崖が続いている。

中国の調査では、現存する主要な石窟は45あり、それに付属する大小の窟龕は252にのぼる。これらの石窟には、10m以上の大仏像が9体、1-10mまでのものが11体、1m以下のものが1709体、その他の彫像が2080体、合計すると1170体の仏像が彫られているという。そのほとんどは、北魏の第4代・文成帝の和平年間(460-465)から第6代・孝文帝の太和17年(493)までに開鑿された。石窟の総面積は約40万㎡である。1961年に、雲崗石窟は中国国務院から国の初めての重点文化財と指定された。2001年にはユネスコの世界遺産にも指定された。山の地形によって、石窟全体は東部・中部・西部の3つに分けられ、東から西に番号が付けられている。

NPO通信

賛助会費として次の方々からご寄付を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。

(敬称略・順不同)

福田有宵・市川裕梨・石井アヤ子・半田晴詠・マダム・ベアラモンテ・清水淳子・八川林加

◎募集

八月三日(土) 江東区砂町文化センターに於きまして無料鑑定会を開催いたします。ご参加ご希望の方は、事務局まで早めにお申し込みください。

事務局だより

【お知らせ】

《再掲》■月筈授与の変更について

福田有宵先生より月筈は、定期例会に継続的なご参加をされている会員へ優先的に授与する方針に変更いたします(三月より順次)。その為、ご欠席中の方には、会報誌のみのお届けとなります。福田先生のご多忙により、やむを得ない変更となりましたことを何卒ご理解の程お願い申し上げます。

■有宵会ピンバッチ販売中です。詳細は、事務局まで。

■有宵会・総会開催のお知らせ

日時…令和元年 七月二十七日(土) 午後一時十五分より(終了後、懇親会を開催。ぜひご参加ください。)

場所…足立区勤労福祉会館ブルミエ 第二洋室
前半は、総会の開催となります。後半は、福田有宵先生のご講演を予定。
※年度更新にあたり、年会費(8,000円)の受付を開始させていただきます。また、新規ご入会をご希望の方は、事務局までお越しください。

なお、ご継続をされない場合でも必ず事務局までご一報をお願いいたします。

■前回 三月度・有宵会定期例会参加者 七十一名の方がご参加されました。

五月となり、いよいよ新元号 令和の幕開けですね。多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。

事務局長 八川林加